情報公開文書

臨床研究内容　ホームページ公開用

1. 研究課題名称

脳血管内治療を施行した虚血性脳梗塞患者の在宅復帰と SIAS との関連性：後ろ向き観察研究

2. 研究の背景・目的

近年,超急性期における虚血性脳梗塞の治療には,遺伝子組み換え組織型プラスミノゲン・アクティベータ静注療法や脳血管内治療が行われるようになり,リハビリテーションの対象も増加しております.脳血管内治療は,前方循環系主幹動脈閉塞を対象とし 90 日後の転帰良好例を増やし,治療の安全性と有効性が証明されております.また,発症6時間を超えた脳梗塞への治療時間が拡大されております.脳血管内治療後のリハビリテーションでは,内科治療群と比較し治療特有の合併症である症候性頭蓋内出血に注意しなければなりません.脳血管内治療は,従来の内科治療と比較し治療の恩恵を受ける一方で,一定数転帰不良例も存在するため転帰予測が難しいです.大規模のデータからは,転帰不良は 21.5%であったとされてます.そのため,重度の症例を対象とする可能性は十分にあります.

脳血管内治療後のリハビリテーション評価指標を用いた報告は少ないです.特に,身体機能や歩行自立度に関する報告はなく,転院転帰を予測した報告は限定されてます.急性期病院では在院日数の短縮が求められており,発症直後から転院調整が進められます.そのため,限られた在院日数の中で予後予測による自宅復帰の可否の判断が求められます.

脳血管内治療後の脳梗塞患者様において在宅復帰が可能な症例は, 総合的な身体機能評価が関連するという仮説を立てました.本研究は,脳血管内治療を受けた脳梗塞患者様を対象とし,自宅退院できた患者様と転院患者様を比較することで,転帰先と総合機的な身体機能の関連を調査することを目的としています.

3. 対象者および期間

脳血管内治療を受けた脳梗塞患者様でリハビリテーションを実施した者を対象とします.期間は,2016 年 1 月～2023 年 8 月までの対象者を調査・研究します.

4. 研究内容

急性期病院退院後,自宅に直接退院できた自宅退院群と後方病院へ転院が必要であった転院群の 2 群として分類し,2 群間の比較を行います.次にロジスティック回帰分析を用いて在宅復帰と身体機能評価である SIAS の関連性を分析します.従属変数は転院転帰,説明変数は 2 群間比較において,有意差を認めた項目を説明変数とします.

5. 個人情報の管理について

データの集計の際は患者様の氏名をコード化し,個人を特定できないように配慮します.

6. 研究期間

2024 年 2 月から 2024 年 4 月までに実施します.

7. 医学上の貢献

脳血管内治療後の転院転帰に関わる要因が特定できた場合,日常臨床で転帰予測が行えるため治療成績向上に役立つものと考えます.

8. 研究機関

製鉄記念八幡病院リハビリテーション部

9. 連絡先（研究責任者）

上記研究対象期間において該当になる方で研究に対して不都合がある場合や研究に対してご不明な点がございましたら下記の連絡先まで連絡をください.

製鉄記念八幡病院リハビリテーション部　原山永世

805-8508　北九州市八幡東区春の町 1-1-1　TEL:093-671-9318